

令和六年度

日南市読書感想文・読書感想画
コンクール受賞作品集

第十六集



主催 日南市教育委員会
協賛 株式会社ニチワ



はじめに

第十六回日南市読書感想文・読書感想画コンクールに応募してくれた児童・生徒のみなさん、本当にありがとうございます。

コンクールには、各学校から多くの作品の応募がありました。みなさんが日ごろから本に親しみ、感想文や感想画に挑戦する姿勢や内容に、私も楽しい気持ちになりました。

みなさんは、本を読んで、「本の世界で楽しかったこと」「奇麗だったこと」「学校で学んだこと」など、そこから想像し深く考えて、表現する力や文章力を伸ばすことができましたのではないのでしょうか。このコンクールを通して、みなさんが大切な本と出会えうきつけかけとなり、これからもたくさんの本を読んで健やかに成長することを心から願います。

終わりに、本コンクールを実施するにあたり、御協賛いただきました株式会社ニチワ様をはじめ、指導や審査に際して多大な御尽力をいただきました学校関係者の皆様に対しまして、心からお礼申し上げます。

令和七年二月

日南市教育長 都 甲 政 文

読書感想文コンクール目次

【小学校一年生の部】

金賞 きょうだいとよみたいな

鵜戸小中学校 坂元 美来・・ 8

【小学校二年生の部】

金賞 ぼくにもできること

油津小学校 黒木 悠生・・ 10

銀賞 ブタさんみたいに

吾田小学校 竹原 惺翔・・ 12

銅賞 ノラネコみたいに

鵜戸小中学校 池本 綴・・ 14

【小学校三年生の部】

金賞 『かわいそうなぞう』を読んで

飫肥小学校 高橋 柚陽・・ 16

銀賞 毎日の給食に感しゃの気持ち

大堂津小学校 落合 希光・・ 18

銅賞 大切な人を大事にしたい

油津小学校 川口 詩乃・・ 20

【小学校四年生の部】

金賞 『ともだちのしるしだよ』を読んで

東郷小中学校 大森 陽仁・・ 22

銀賞 個性はわたしのたから物

飫肥小学校 坂元 伶名・・ 24

銅賞 『先生、感想文、書けません！』を読んで

北郷小中学校 甲田 優心・・ 26

銅賞 時間をやくパン屋さん

桜ヶ丘小学校 長友 翼・・ 27

入選 『わたしはなんでも知っている』を読んで

吾田小学校 松下 絢咲・・ 29

【小学校六年生の部】

金賞 『葉っぱのフレディ』を読んで

潟上小学校 竹田 琴華・・ 31

銀賞 先生、しゅくだいわすれました

南郷小学校 木村 風太・・ 34

銅賞 『ぼくたちのいばしょ』を読んで

北郷小中学校 甲田 迅・・ 36

入選 『あの星が降る丘で、

君とまた出会いたい。』を読んで

潟上小学校 杉本 心美・・ 37

入選 『いつかの約束1945』を読んで

北郷小中学校 鈴木 優月・・ 40

【中学校の部】

金賞 『マイナス・ヒーロー』を読んで

南郷中学校 門川 歩未・・ 42

銀賞 好きな自分を大切に

油津中学校 中濱 結愛・・ 45

銅賞 自分を形作るもの

鶴戸中学校 中原 咲和・・ 47

入選 家族の大切さ

榎原中学校 河野 茉友・・ 50

入選 「料理」とは……

南郷中学校 田中 絢人・・ 53

読書感想文の審査を終えて・・・・・ 56

読書感想画コンクール目次

【小学校一年生の部】・・・ 58・59

金賞 かいじゅうじまのなつやすみ

吾田東小学校 倉元 康成

銀賞 うみのおと

東郷小中学校 野脇 匠真

銅賞 なんにでもレナール!

榎原小学校 三浦 一凜

入選 うみのおと

鴻上小学校 前原 沙咲

入選 きよだいなガチャガチャ

桜ヶ丘小学校 前田 爽輔

【小学校二年生の部】・・・ 60・61

金賞 おおきなきがほしい

北郷小中学校 風早 慧茉

銀賞 アマガエルのうた

東郷小中学校 山下 煌輝

銅賞 みずたまのたび

桜ヶ丘小学校 山下 遙真

入選 トラケラトプスと巨大ワニ

大堂津小学校 多田 希琉亜

入選 アザラシのアニュー

吾田東小学校 植野 日菜

【小学校三年生の部】・・・ 62・63

金賞 恐竜トリケラトプスと巨大ガメ

吾田小学校 早田 清春

銀賞 ジャングルブック

油津小学校 平永 仁華

銅賞 おぼけのきもだめし

吾田東小学校 日高 結彩音

入選 10分で読める名作 とりかえっこちびぞう

桜ヶ丘小学校 猪股 諒也

入選 オリピックのおぼけずかん

鵜戸小中学校 馬場 陵太郎

【小学校四年生の部】・・・64・65

金賞 わたしのでくびみなかった？

吾田東小学校 竹下 竜矢

銀賞 金色の雲になったトラ

桜ヶ丘小学校 鳥谷 快斗

銅賞 わたしのでくびみなかった？

吾田東小学校 蛭原 明生

入選 わたしのでくびみなかった？

南郷小学校 高橋 望叶

入選 神様のおつかい犬純平

飢肥小学校 重村 恩夢

【小学校五年生の部】・・・66・67

金賞 おりの中の秘密

桜ヶ丘小学校 白石 結愛

銀賞 オペラ座の怪人

地下にひびく恐怖のメロディー

飢肥小学校 濱田 彩乃

銅賞 そのころ地球では・・・

油津小学校 黒木 晴大

入選 秘密の花園

桜ヶ丘小学校 松浦 さや

入選 そのころ地球では・・・

北郷小中学校 日高 結翔

【小学校六年生の部】・・・68・69

金賞 暗やみに能面ひっそり

油津小学校 山田 陽莉

銀賞 白いりゆう黒いりゆう

桜ヶ丘小学校 宮田 虹雫

銅賞 手塚治虫

酒谷小学校 岩倉 白花

入選 シートン動物記 オオカミ王ロボ

潟上小学校 上村 聖樹

入選 銀河鉄道の夜

大窪小学校 高村 叶夢

読書感想画の審査を終えて・・・・・・・・・・ 70

審査員氏名一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 72

読書感想文入賞作品

【小学校一年生の部】

金賞

《講評》

本をよんでもおもしろかったところを、じぶんが好きな人といっしょになってたのしんでいるかのようにかいています。

おじいちゃんやおばあちゃんのことをたすけたい、おねえちゃんもうれしいきもちになる、ともだちといっしょにたのしくよんだ、ということをかいたことで、やさしさやよろこびがあらわれています。とてもすてきです。これからも、みんなでここにこわらって本をよんでほしいです。

きょうだいとよみたいな

鶴戸小中学校 一年 坂元 美來

わたしは、『ようかいむらのびつくりゆうえんち』をよみました。おもしろかったです。とくに、ぶるといいうゆきおんなです。ゆきおんなは、さむいところにいてくちからこおりをだします。わたしがゆきおんなだったらおじいさんと、おばあさんをあつそうなときにすずしくしてあげます。それは、わたしのおじいさんとおばあさんをたすけたいからです。

ほかにもおもしろいことが、あります。それは、かい

てんブランコです。それは、まわっているからです。わたしものつてみたいです。

わたしはこのほんがおもしろかったです。だから、おねえちゃんとかんどもはよみます。おねえちゃんもわたしとおなじうれしいきもちになるといいです。

今日ともだちとよみました。ともだちは、よんで、おもしろいといっていました。ともだちがきにいていたところは、ちいさくてちやいろいろいようかいをさがすところでは、それはかならずどのページにもひよこつとでてきます。めくるたびにちやいろいろいようかいがどんどんでてきます。十四ひきみつかりました。ともだちとちやいろいろいようかいをさがして、とつてもたのしかったです。

ともだちも

「たのしかった。ママとよみたい。わたしもかりたい。」
といっていました。それで、

「かりたほんだから、わたしがかえしたらかりていいよ。」

といいました。わたしのおうちでも、ともだちのおうちでもにこにこわらってほしいです。

よんだほん

「ようかいむらのびっくりゆうえんち」

【小学校二年生の部】

金賞

ぼくにもできること

《講評》

油津小学校 二年 黒木 悠生

本をよむことをおして、じぶんじしんのことを見つめたりまわりの人のことをかんがえたりして、おもいやりのある気もちをあらわしています。

ぼくは、さいしょ本を見たとき、おちびさんてなんだろうと思いました。

友だちや生きもののことをかんがえると、たすけてあげたい、まもつてあげたいという思いが生まれ、ゆう気を出さなければならぬ気もちを書くことができしました。すばらしいことだと思います。

てんさんはてんこう生のまるさんのせのことを考えていたけど、いじめっこにいじわるをされて、てんさんは、ちゅういをしてまるさんをたすけて、強いなと思いました。ぼくなら、ちゅういは、できるかなと思いました。

本との出会いは、じぶんにあたらしいところをそだてることになるのです。

た。いじめられるのはいやだし、だれかたすけてほしいと思います。見るのもいやな気もちになります。てんさんは、ゆうきを出したのが、すごいなと思いました。

ぼくも、同じようなことがあったら、ゆうきを出して、ちゅういをしたいと思います。

てんさんは、体が小さいことを気にしてたけど、まるさんに大ものといわれて、うれしかったと思いました。これから、いじわるもせず、ちゅういをして、いい学校生活をおくりたいなと思いました。

ぼくも、てんさんのように、元気で、ちゅういもできる、頭のよい子になりたいなあと思ったので、家でbenきょうをいっぱいしたいなと思いました。

ぼくは、まるさんかてんさんといっしょに、せをくらべてみたいです。

ぼくも、小さい人だけど、なんでもできます。走るとも手つだいも大すぎです。いじわるはだめ、いいこと

はいいです。

ぼくも、子どもあつかいされています。家ぞくで一ばんちっちゃいです。でも、小さいぼくでもできる、お手つだいをさがしてがんばっています。

ぼくのできるお手つだいは、さらなおし、さらならべとせんたくほし、たたみができます。せんたくほしは、さいしょハンガーにかけたりすることがむずかしかったけど、どんどんなれてきて、今では、大きいふくからくつしたまでほせるようになりました。高いところにはほすときは、お母さんといっしょにやっています。

さらあらいは、手がとどかないので、ふみ台ののってします。体の大きさはかんけいなく、自分のできることをさがしています。友だちがこまっていたら、声をかける、

自分のかかりのしごとはさいごまでがんばりたいな
と思いました。

もうすぐ、うんどう会があります。さいごまで一生けん
めい走って、ダンスもがんばります。

読んだ本「おちびさんじゃないよ」

銀賞

ブタさんみたいに

吾田小学校 二年 竹原 惺翔

みなさんは、自分のはなが気に入っていますか。

ぼくは、『はなとりかえっこ』というお話を読みました。このお話は、くしゃみが止まらなくてこまっているアラさんとブタさんの出て来るお話です。

ぼくが、一ばんおもしろかったところは、はなをとりかえたところでした。とてもかんたんにとりかえたことに、びっくりもしました。

もし、ぼくのはなをとりかえるとしたら、さるさんとかえたいと思います。それは、おいしい食べものをさが

すのはもちろん、木のぼりもらくできるからです。

でも、かがみで自分の顔を見るのは、アラさんと同じでちよつとこわい気がします。

ブタさんのはなにかわったアラさんが、そうじきがわりのはなをつかって、ほこりをとばすところはべんりだなど思いました。けれど、ほこりの場しよがかわるだけでは、きれいになったとは言えません。

そこで、アラさんが思い切つてすいこむと、一しゅんでへやがピカピカになりました。すごい、頭いいあと思いましたが、やっぱりくしゃみが止まらなくなつて、へやはめちやくちやになりました。せつかくとりかえたのに同じ目に合いました。

くしゃみをいまいましいと思うアラさんと、

「あら、すてき。だれかがうわさしてるしらせよ。」

というブタさんだったら、ぼくは、ブタさんみたいに何でも前むきに考えて行どうした方が、うまくいくと思いましたが。

これからは、人をうらやむより、自分のことをすきになつて、何でも楽しくチャレンジしていきます。

読んだ本「はなとりかえっこ」

銅賞

ノラネコみたいに

鵜戸小中学校 二年 池本 綴

ねこがすぎだから、『ノラネコぐんだんうみのたび』
という本をよみました。

ノラネコぐんだんがワンワンちゃんのふねにしんに
ゆうしてあそびまくるといふはなしです。

いちばんおもしろかったところは、ノラネコぐんだん
がワンワンちゃんにおこられているところです。はんせ
いしているところや、すなおにあやまったところがおも
しろかったです。

ぼくもおとうさんとおかあさんにおこられたことが

あります。一年生のときになんかいかおこられたことが
あって、ないけれど、あやまれなかったです。つきおこ
られたときは、ノラネコぐんだんのようにあやまってい
ます。

きらきらぼしがたべられるとはしりませんでした。い
つしよによんでいたおともだちもきらきらぼしをたべ
てみたいなどおもっています。こんどきらきらぼしをつ
くってみたいです。

ノラネコぐんだんがふねをなおしたところがすごか
ったです。うみにもぐってスクリューをとりはずしてい
ました。どうやってはずしたかわからなかったです。ど
うぐはなんだろうとふしぎにおもいました。ノラネコな
のにみずにはいることができるなんて、すごいとおもい

ました。おかあさんがむかしかっていたミルクというね
こは、ノラネコぐんだんのように、スクリューをはずす
ことはできません。でもミルクはかわいいです。たまに、
ぼくの手をツメでひっかくことがあります。ミルクがノ
ラネコぐんだんみたいになったときは、ミルクのぼうそ
うを止めたいです。

読んだ本「ノラネコぐんだんうみのたび」

【小学校三年生の部】

《講評》

それぞれが食や生き物をおして読んだことをもとに、テーマをしっかりとつことができたことで、感じたことや考えたことを、自分の言葉ではっきりと書き表すことができました。

とくに、人のふるまいや力の大きさによって、わたしたちの生活が明るく幸せな日々にかわっていくことを感じ取り、本をおして学ぶことができています。

これからも多くの本を読み、身のまわりのことを考えていってほしいです。

金賞

『かわいそうなぞう』を読んで

飢肥小学校 三年 高橋 柚陽

そのむかし、日本がせんそうをしているころにあった本当の話です。

国のめいれいで動物園の動物たちをころさねばならなくなり、しいくいんさんたちがせめて心のやさしいぞうたちだけは生きさせたいとがんばるけれど、さい後には死んでしまうとてもかなしい話です。わたしは、この絵本を元にさいげんされたドラマを、テレビほうそうでみたことがあります。その時、わたしとお母さんはなみだが止まらず、いつもうるさい妹もだまってしまいうくら

い心にのこるものでした。だから、わたしはこの絵本を図書館でかりて読みました。テレビで見た通りの内ようで、またなみだが出ました。かわいそうやら、くやしいやらいろいろな気持ちでいっぱいになりました。

ぞうたちはさいごまで人間をしんじ、生きようとがんばっていました。でもしんじていた人間にころされたのです。えさや水をもらえなくても、さいごまで人間にまえ、のこりのわずかな力でおぼえたげいをひろうしようとするのです。さいごがつかきたとき、ぞうはどんな気持ちで死んでいったのだろうと思います。

今も世かいではせんそうをしている国があります。この絵本に出てきた動物たちのように何もわるい事をしていない大人や、子どもたちがせんそうのせいでたくさ

ん死んでいます。これからたくさんうれしい事や、楽しい事があり、生きるはずだった人たちです。

せんそうは人間の心をきょうぼうなおにへん身させてしまうものだと思います。せんそうをする事でもいい事なんか何も生まれません。わたしは妹や友だちとけんかして、時どき相手にいやな事を言ったり、したりして、きずつけてしまう事があります。その時に自分の心の中はイライラだらけで自分がおにのようになって、事に気づきます。心が苦しくて、何も楽しくなくて、こんな自分じゃない！とさらに自分がいやになります。だからかならずあやまるようにしています。そのあとはふしぎと心がかかるくなり、もとの自分らしく生き生きしてきます。子どものけんかは小さな事かもしれませんが、

せんそうも同じ事だと思えます。何かをきずつけてその人の心はおにになったままで、これからの人生楽しいのだろうか？と思えます。

この絵本やテレビほう送を見たおかげでわたしはいろいろな事を学びました。この本は世かい中の人たちに読んでほしく、「一人一人が何かに気づいてほしいな。」と思います。そしてみんなの心がけんこうで明るく楽しい毎日をすごせるようになり、本当にへいわな世の中になるといいなとねがいます。

読んだ本「かわいそうなぞう」

銀賞

毎日の給食に感しゃの気持ち

大堂津小学校 三年 落合 希光

私は給食が大好きです。『給食室のいちにち』という題を見て、給食はどのように作られているか知りたくなり、早く読んでみたいとワクワクした気持ちになりました。

この本には、給食室の一日の仕様の様子が書いてありました。毎日食べている給食のことなのに、知らないことがたくさんあり、おどろきました。

一番おどろいたことは、給食は、校長先生がさいしょに食べて、安全をたしかめてくださっていることです。

校長先生は、私たちがおいしく食べられるように、さまざまなことをたしかめながら食べてくださるので、私たちのヒーローです。

給食を作ることで一番大変と思ったことは、多くの材料の下ごしらえをすること、大きななべを使って材料をいためたりませたりすることです。私が調理員さんだったら、大きなべでいためたりませたりすることになってしまい、すぐやめてしまうかもしれません。調理員さんたちは、あつい中でこのような作ぎようを毎日しているのですねじられませんか。すばらしいと感じました。

この本を読んで、多くの人の力で給食が安全に作られていることを知りました。これから給食を食べる時は、給食にかかわっている人のことを思いうかべ「ありがとう

う」と感しゃの気持ちをもって食べます。そして、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつも心をこめて丁寧に言います。また、給食をがんばって作ってくださるので、私も苦手な豆をのこさず食べるようど力します。

私のすきな給食のメニューはラーメンです。その理由は、ラーメン屋さんのしるより甘くのみやすいし、めんも食べる時、チュルチュルという音がし、おいしく感じるからです。ラーメンがでる日はしあわせな気持ちになります。

給食にかかわってくださる方がた、これからもおいしい給食を作ってください。

読んだ本「給食室のいちにち」

銅賞

大切な人を大事にしたい

油津小学校 三年 川口 詩乃

動物には、人間と同じように、いのちがあります。いのちがあるから、かなしいとか、うれしいとかいう気持ちかわいてきます。動物だって、大切にされれば、うれしいに決まっています。

わたしは、動物が大スキです。その中でも、ねこが一番スキです。そのねこがタイトルについた本『大切にされたねこ』は、すぐ目にとまり手に取りました。また、表紙絵にも、きょうみがわきました。

この本には、にん知しようのおばあちゃんが出てきま

す。おばあちゃんはまごの女の子を自分が子どもものころにかつていたねこのノワールだと思いこんでいます。だから、つい女の子を、「ノワール」とよんでしまいます。おばあちゃんが心配で毎日びょういんにお見まいに行っていた女の子は、とてもかなしかったと思います。もし、わたしが女の子だったら、ずっとなっていたと思います。

その後、おばあちゃんのおさななじみからねこの話を聞きます。実は、ノワールはすてねこだったのです。いっしょにいた二ひきは、いつのまにかいなくなってしまうのですが、その中でこのこった一ぴきがノワールだったのです。だから、おばあちゃんは、いなくなった二ひきの分もふくめて、ノワールを大切にしていたんだなと思

ます。

ノワールがしんだ時、おばあちゃんは、たいへんかな
しみました。でも、「人間にあいされたねこは、人間に
なってもどつてくるんだよ。」と言われた言葉を思い出
します。ここでおばあちゃんが、女の子をノワールとよ
んだ理由がようやく分かったような気がします。おばあ
ちゃんにとって女の子は、ノワールと同じくらい大切な
そんざいなのでしょう。そして、女の子も、おばあちゃ
んを大切に思っているのだと思います。

わたしは、この本を読んで、これからも、大切な人を
大事にしていきたいな、やさしくしたいなと思いました。

読んだ本「大切にされた猫」

【小学校四年生の部】

《講評》

本を読むきっかけとなった理由や自分が抱いた疑問などの書き出しから始まり、作中人物の言動に共感した内容や自分との比較ひかくが素直な言葉でつづられ、おわりでは、新たに学んだことや感動したことをこれからの生活でどのように生かしていきたいかが書かれており、どの作文も優劣ゆうれつをつけがたい内容となりました。

これからもいろいろな本と出会うことよって、成長の糧かてとなっていくことを願っています。

金賞

『ともだちのしるしだよ』を読んで

東郷小中学校 四年 大森 陽仁

ぼくは、この本の表紙の絵を見て、
「どうしてサンダルを片方ずつしかはいていないんだろう。」

と気になりました。

この本は、ペシャワールという町のなん民キャンプでくらすリナとフェローザが、救えん活動でもらった一足のサンダルの片方ずつをはいていたことから、仲良しになっっていくお話です。

ぼくが一番心に残ったのは、リナがフェローザに

「ともだちのしるしだよ。」

と言ったところです。なぜかというところ、それまでは、一足のサンダルの片方ずつを持っていた二人が、その日から、一日交たいで一人ずつ両方のサンダルをはくことに決めたからです。

片方ずつはいても、はきにくいので、二人ともうれしくなるように、一日交たいにしたんだなと思いました。もし、ぼくがリナだったら、同じ様に友達と交たいではくことにすると思います。

ぼくには二人の弟がいますが、お気に入りのおもちゃやおいしいおやつがあったら、一人だけで遊んだり、一人だけで食べたりするよりも、三人で遊んだり、かしたり、かしてもらったり、分け合って食べたりする方が、

楽しいし、うれしいです。友達になったフェローザと、サンダルを交たいではこうとしたリナの気持ちがわかる気がしました。

ぼくは、この本を読んで、遠い国の子ども達も、分け合ったりゆずり合ったりしながら仲良くしているんだな、ということ学びました。

はく害をおそれて、自分の国から逃げる人達のことを『なん民』というそうです。ペシャワールというなん民キャンプにいたリナとフェローザも、仲良くくらししています。二人の様にやさしい人達が、安全で楽しくくらしができるようになると思います。

これから先、友達になる人と仲良くしていくために、どうしたら相手が楽になるか、よろこぶのかを考えてい

きたいなと思います。

銀賞

個性はわたしのたから物

読んだ本「ともだちのしるしだよ」

飢肥小学校 四年 坂元 伶名

みなさんは、世の中が不公平だと思ったことがありますか？

この本の主人公、公太はせが低いけど、夢がバレーボールの選手で、毎日牛にゆうを飲んだりして、せを高くしようと努力をしています。反対に、友だちの希来里きらりは、せが高くて手足も長い。でも、せが低くならないとれない、乗馬の選手が夢です。おたがいに、

「これって不公平だよ。」

と思っている。という内容の本でした。

わたしも、公太と同じで不公平だと思ったことがあります。例えば、わたしは、視力が悪いから、ゲームの間を短くしたり、遠くを見たりして目を大切にしているのに、何も気をつけなくても視力が悪くならない友達がいないあとと思うことがあります。また、わたしは運動が苦手です。一生けん命走っているのに、いつもビリになります。だから、速く走れる人はいいあとと思います。わたしは、この本を読むまでは、世の中は不公平だと思っていました。でも、今は少し考え方が変わりました。

この本に、

「不公平は公平だ。」

という言葉がありました。わたしも、そうだと思います。

不公平は、他の人にくらべて、自分はおとっていると

いこむ気持ちから生まれるんだと思います。言いかえると、自分には自分の個性があるということです。自分はどうすることもできないし、努力だけでは変えるのがむずかしいなやみもあると思います。でも、ちょっと考え方を変えてみると前に進める気がします。わたしも、自分に自信がないことがたくさんあります。でも、自分は自分。今の自分の個性を大切に、ありのままの自分をもっともっと好きになっていきたいです。

読んだ本

「あっちもこっちもこの世はもれなく」

銅賞

『先生、感想文、書けません！』を読んで

北郷小中学校 四年 甲田 優心

『先生、感想文、書けません！』この本の題名を見た時、わたしも声を大にして言いたいと思ってしまいました。なぜかと言うと、わたしは感想文を書く事が苦手だからです。言葉をまとめようとする、頭の中がひっぴちやかめっちゃかになって、パーンと、はじけそうになります。

この本は、感想文が書けない主人公の女の子が友達との言葉のやりとりで感想文が書けるようになったお話です。主人公の女の子は、本を読むのは好きです。しか

し、文字をまとめて感想を書く事はきらいです。わたしと同じだなあと思いました。本を読む事は、ふしぎな事や発見がたくさんつまっていて、いろいろな事を学べて楽しいです。時間があつという間にすぎます。感想を書く時は、書いたり消したりのくり返しで、完成するまでに、時間がかかります。大変な作業と分かっているのに、時間がかかります。大変な作業と分かっているのに、やる気をなくしてしまう時があります。でも、この主人公は、友達との言葉のやりとりで、感想文を書く事ができて、おどろきました。物語を言葉でやりとりしながらつくり、その物語の文で感想を書くという事を発見していました。友達との言葉のやりとりが楽しそうに引きこまれました。わたしもまぎって物語を作りたいと思いました。こんなに楽しく言葉のやりとりをしたら、きっと

すらすら書けるんだらうなと思いました。国語の授業でも、物語を作る授業があった時、書いては消してのくり返しだった事を思い出しました。友達の男の子はおもしろいだけあってユニークな物語ができていました。楽しいと思わないと言葉は出てこないんだなと思いました。友達と会話をする事って大事だなと思いました。友達の数だけ、いろんな意見があり、言葉の数も多く出てくると思います。感想文を書く時は、楽しい気持ちで取り組み事を頭に入れてがんばりたいと思います。

これからも、たくさんの本を読んで、たくさん友達と会話をして、言葉を作りたいと思いました。次の感想文を書く時が楽しみです。

読んだ本「先生、感想文、書けません！」

銅賞

時間をやくパン屋さん

桜ヶ丘小学校 四年 長友 翼

ぼくがこの本を選んだ理由は、『時間をやくパン屋さん』という題名を見た時、どのようなパンを焼くのか気になったからです。

これは、その人にとって、ぜったいにわすれたくないしゅんかんや、覚えておきたい時間をパンにこめるお話です。

主人公のピーターが「時間をやくパン屋」に入ってくると美味しそうなおいが立ち込めていました。店内のちんれつ台のパンには、一つ一つ名前が書いてあり、一

一人のわすれられない思い出が食べたしゅんかんによみがえるパンです。ぼくにもわすれたくない思い出があります。剣道の試合で、いつも勝てない相手に勝てた時は、とてもうれしくて、その思い出をパンにこめたらどんな味になるのかなと思いました。

ぼくがおどろいたことは、その人にしか買えないパンがあることです。ふつうだったら好きなパンが買えるのに、この本のパン屋さんは、自分が思いを込めたパンしか買えないことにおどろきました。一つ一つのその人の思い出が込められていて食べると味がよみがえるパンだからだと思います。

また、想像のパンを思いついた主人公が、焼いたパンを友達に味見させて、みんなに、「ぼくの夢は、こんな

だよ。」と教えてあげようとしたところも心に残りました。

ぼくも剣道で試合に勝ちたい気持ちを込めてパンを焼いてみたいです。そして、みんなにも食べてもらって、ぼくの夢を知ってほしいです。

ぼくはこの本を読んで、一つ一つの思いのこもった時間を大切にしていきたいと思いました。剣道でも毎日すぶりを一つでも多く勝てるようにがんばりたいと思います。これからは、一つ一つ思い出を作って時間を大切に出来るような人になりたいです。

読んだ本「時間をやくパン屋さん」

入選

『わたしはなんでも知っている』を読んで

吾田小学校 四年 松下 絢咲

わたしが読んだ本は、『わたしはなんでも知っている』です。この本に出てくる主人公のくす子は、四年生にしては、たくさんのものを知っていて、漢字もいっぱい読めます。この本は、知らないおじいさんから、今まで知らなかったことがどんどん分かるあめ玉の菓をもらい、知らなかったことがどんどん分かるようになる話です。とても心にのこったことは、くす子が公園のベンチにすわっているときに、知らないおじいさんと会った場面です。おじいさんから、「今まで知らなかったことがど

んどんわかる菓がこの世にあったら、ほしいか？」

ときかれ、

「ぜったいにほしい！そしたら、もっともっ

とかしこくなれるし！」

と、言いました。するとおじいさんが持っていたつえの頭をぬき、その中から、あめ玉の菓を出して、くす子にわたして、これからどんなことが分かっていくのかと、とてもわくわくしました。

ほかに心にのこったことは、物語の最後のケンカ場面です。クラスメイトの紀沙きさという子が、いろんなウソをついて、それをくす子が、いろんなしつ問をして、ウソを説き明かしていました。くす子はさっきまで、紀沙にわる口を言われていたのに、この場面では、かっこい

いし、ゆう気があるなと思いました。わたしは、『わたしはなんでも知っている』を読んでこのようなことが心にのこりました。物語のはじめは、わたしも、あめ玉をもらって、たくさんのことを知りたいと思っていましたが、この本を読んで、知らないほうがいいこともあるということを知りました。ききたくないことや、わすれたようなことを知ったら、きかなかったことにするという方法もあることを知りました。

この本は、主人公の気持ちがどんどん変わっていく本で、とてもおもしろみがありました。このような本はあまり読んだことがありませんでした。なので、これから、同じようなシリーズを読んでみたいと思いました。

読んだ本「わたしはなんでも知っている」

【小学校六年生の部】

金賞

《講評》

『葉っぱのフレディ』を読んで

潟上小学校 六年 竹田 琴華

どの作品も感動や共感、不思議があふれており、読むとその感動がよく伝わります。

本との出会いに始まり、心が動かされたことや自分の考え、感想をしっかりと表現しています。

最後に、読書をして学んだことをこれからどう生かすか具体的に述べていました。

これからも読書の楽しさに触れて、考える力や書く力をさらに伸ばしてほしいです。

私たちの学校では、「ぐりとぐら」の方が読み聞かせをしてくださいます。その時に読み聞かせしてもらったのが『葉っぱのフレディ』という本でした。

葉っぱの一生の話だと思っていたのですが人間にも当てはまるような深いお話でした。

主人公、フレディ（葉っぱ）の一生は一年です。初めは生まれてきて良かったな、そして、木の上から見る景色や友達とふれ合うことが楽しくて仕方がない毎日でした。そんな中、季節が変わり、みんなの姿もそれぞれ

変わってきました。それは、秋になり、紅葉がこうよう始まったからです。

生まれた時は、同じ色でもいる場所が違えば太陽に向く角度が違う。風の通り具合もちがう。月の光、一日の気温何一つ同じ経験はないんだ。だから紅葉するときにはみんなちがう色に変わると葉っぱの仲間が言いました。

この言葉は、色々なことを経験しているんな葉っぱに変化する事だと思います。これは、人間にも当てはまるのではないかと思います。クラスでもそれぞれが違う経験をしています。だから考えも人それぞれで同じ人はいません。

このような言葉もありました。

葉っぱはどれも同じ形をしていると思っていました

が、やがてひとつとして同じ葉っぱはないことに気がつきました。この時フレディは自分は自分のいい所がある
と気付いたと思います。私は、前に出て活動するのが大好きです。恥ずかしがらないことや失敗してくじけない
所が私の長所だと思います。同じでなくても自分のいい
所は、自信をもって頑張りたいです。

フレディの一生は一年です。冬が来ると落ち葉になって死にます。死ぬことを知ったフレディは、怖かっただろうと思います。私も死ぬと分かったらやっぱり怖い
です。この世からいなくなることで、家族や友達とも会えなくなるし、大好きなアイドルにも会えなくなるし、旅行も行けなくなります。やっぱり死ぬことはすぐに考えられませんか。

落ち葉になる事を死ぬと思ったフレディにダニエル
というなんでも物知りな友達が

「世界は変化し続けている。死ぬことも変わることの
つだ。」

と言いました。

私はこの言葉にびっくりしました。しかもすぐには絶
対に死ねないと思えました。またダニエルは、こうも言
っています。

「まだ経験したことがないことはこわいと思う(死ぬこ
と)ものだ。でも考えてごらん。世界は変化し続けるん
だ。変化しないものは一つもないんだよ。」

これは時代が変わっても命がつながっていくことな
のかなと思えました。冬の雪の日にフレディが最後に散

って地面の上から木を見上げた時、この木はまだまだ生
き続けると思えました。自分が死んでも命は、つながる
ことや葉っぱとして生まれてきて良かったと思う事が
出来たからです。

自分は今生きています。先生がいつも時間は命と言っ
ています。六年生で出来ることをしっかり頑張り、楽し
い思い出を作りたいと思っています。

読んだ本「葉っぱのフレディ」

銀賞

先生、しゅくだいわすれました

南郷小学校 六年 木村 風太

「先生、しゅくだいわすれました。」

この本の題名のように、ぼくも学校で何度か言ったことがあります。本屋さんでこの本を見つけたときに、すぐドキッと思いました。

内容は、ゆうすけという男の子がしゅくだいをわすれたことをごまかすために、うそをつく事が始まりです。ゆうすけのうそにすぐ気づいた先生が、

「ゆうすけ君、だめだなあ。うそをつくならもつと上手につかなくちゃ。」

と言って相手が楽しくなるよううそをみんなで考えていきます。毎日、一人一人が交たいで、宿題ができなかった理由を話しますが、しばらくすると、宿題をすることより、うそを考える方がずっとたいへんな事に気づきます。なぜなら、宿題は、十分で終わるけれど、宿題ができなかった理由を考えるには、二時間もかかるからです。最後には、先生が宿題を作ることを忘れた理由を、みんなが楽しくなるうそでお話をして終わりです。

ぼくは、うそはついたらいけないと思います。でも、この本を読んで、相手が楽しくなるうそもあるんだなどはじめて知りました。

最初に、宿題を忘れたゆうすけは、夜しよう、朝、学校に行ってしまうと、めんどくさい事をどんどん後ま

わしにしていました。ぼくも同じようになったことが何

そをつかない正直な人になりたいと思います。

度もあります。ぼくのお母さんは、

「めんどくさいことほど先に済ませて、時間と心によゆうやゆとりをもたなきゃだめよ。」

読んだ本

「先生、しゅくだいわすれました」

と言います。ぼくはそのたびに、うるさいなと思っていましたが、ゆうすけのように、うその言いわけをしたり、うそがばれないかと心配したりしたくないので、お母さんに言われたことを守ろうと思いました。

わるいうそは、いけないと思うけれど、楽しいうそや、おもしろいうそ、やさしいうそもあるんだなどはじめて知りました。

これから、宿題や大切なことは、めんどくさがらずに、先に済ませるようにしようと思います。ぼくは、う

銅賞

『ぼくたちのいばしょ』を読んで

北郷小中学校 六年 甲田 迅

家の食卓テーブルの上に本が置いてありました。『ぼくたちのいばしょ』という本でした。ぼくは、いばしょとは、どこなんだろうと思って読む事にしました。この本は、外国人の転入生が来て、いろんな場面でなん題をかかえ解決していくという話です。

運動会の場面が心に残っています。運動会で外国の文化を取り入れた方がいいのか、入れない方がいいのかという場面がありました。ぼくは、取り入れた方がいいかと思いつつ読んでいました。なぜなら、新しい発見がで

きるかもしれないと思うからです。ぼくの小中学校も去年とちがった運動会でした。ちがった所は、小学部の応援が加わった事です。小学部最上級生として、下級生に自分たちの考えたダンス応援を教えました。下級生に教えるのは、とても大変で苦労したのを覚えています。でも、団の仲間と一生けん命協力して、下級生に教えて、覚えてくれた時はとてもうれしく思いました。ぼくたちについて来てくれて、団結力とは、この事なのかと思いました。新しく何かを取り入れる事は発見があつて自分を成長させてくれると思います。

しかし、転入生の外国人の友達がいたらどうなるのだろうか？と思いました。外国人相手に日本語で話しても何も伝わらないと思いました。文化のちがいがあつたりと、

スムーズに相手に伝わらないもどかしさがあると思います。ぼくの学校は、シンガポールと交流があります。そこでシンガポールの文化を学んだりします。日本の文化もたくさん教えて、シンガポールの文化も学んだりするので、毎年ワクワクしながら体験しています。ぼくは、外国語を学んでいるから、いつか英語で外国人と話してみたいと思いました。外国人に向き合うという事は、まず外国語を学んでマスターしないといけないなと思いました。

今では、いろんな場所で外国人を見ます。日本の文化を大切にしながら、外国の文化も学んでおたがいが楽しく過ごせる環境かんきょうをつくれるといいなと思いました。

読んだ本「ぼくたちのいばしょ」

入選

『あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。』を読んで

潟上小学校 六年 杉本 心美

私は、書店で小説を探していました。その時に、パッと百合の花と青色の表紙が目に入ってきました。イラストも綺麗きれいだったので、手に取って読むことにしました。

この本は、中二りょうの涼りょうが、転校先の学校で、どこか大人びた同級生・百合ゆりと出会う。初めて会うのにどこか懐かしく、ずっと前から知っていたような不思議な感覚。まっすぐに凛りんとした百合に涼はどんどん惹ひかれていく。しかし、告白を決意した矢先、百合から聞かされたのは、七十五年前の戦争中にまつわる話で。という物語です。

私は、平和教室の授業で、特攻隊の話を聞きました。特攻隊とは、飛行機ごと敵に体当たりするという、今では考えられない戦い方をした人たちのことです。タイムスリップして主人公の百合が七十五年前の特攻隊員「佐久間彰」という人に出会います。特攻に出る前にお話をしたり、食事を一緒に食べたりしました。そうしてるうちに、百合は、彰に好意を抱くようになります。でも、特攻隊として、出撃してしまいました。悲しみは、想像を絶するものだったと思います。私だったら、好きな人が亡くなってしまうことはとても辛いです。この後、百合は、現実に戻ります。戻った後、修学旅行で特攻平和会館で、彰が百合宛に書いた、遺書を見つけます。それを讀んだ百合は、涙が止まらず、そのまま帰ることに

なります。時が過ぎ、夏休み終わり、転校生「宮原涼」と出会います。二人ともどこか懐かしいという不思議な感覚になります。実は、涼は、彰の生まれ変わりでした。私は、この場面が特にお気に入り、何度も読み返してしまいます。生まれ変わっても出会う百合と涼は本当に、運命なんだなと感じさせられます。こんなことがあるのかなど不思議な気持ちになります。涼は、百合と一緒に学校生活を過ごしていくうちに、好意を抱くようになります。連絡を取り合うほど仲を深めた二人。涼は、百合を海に誘います。そんな中、涼は百合に告白をします。海に着くと涼は、百合から驚くようなことを聞きます。それを聞いた涼は、前世の自分を好んでくれているのに、なぜか嬉しい気持ちになれなか

ったのです。その後、百合と涼は、まともに話すこともなく、中学を過ごしました。高校になると会うこともなくなり、そのまま、大学二年の冬まで過ごしてきましたが、また再会を果たした二人。もう一度勇気を振り絞って、

「俺が百合を守るよ」

と、告白すると、

「守ってくれなくていい。お互いに守ればいいし、それが無理なら一緒に逃げればいい」

と、意外な返しをされたが、二人は、無事結ばれたというお話でした。

この小説は、凄く集中して読むことができました。修学旅行で、平和学習をします。戦争のことやその中で生

きた方々の気持ちが少しでも理解できると嬉しいです。この小説はぜひみなさんにおすすめしたいほどお気に入りの本です。

読んだ本

「あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。」

入選

『いつかの約束1945』を読んで

北郷小中学校 六年 鈴木 優月

図書館に行った時に表紙や本のタイトルが気になったので、この本を選びました。

この本は、ゆきなどみくがある日出会った、見た目はおばあちゃん中身は九さいの関根ですが、どこのだれなのかいっしょに町を歩きまわり、語り合った夏の一日のお話です。

その中で一番心に残ったことは、ゆきながおばあちゃんと九さいの関根すずの心がいれかわったといったところだと思います。なぜかというところ、いっしょにいたみくが、な

かなか信じてくれないように、ふつうならおもいつかないことを当たり前のように自信満々に言っていることが、そんなけいと同時にもしろいと感じたからです。もし、わたしがゆきなやみくだったら自分たちで何とかしようと考えなかったと思います。なぜなら人を助けたいと思ってもどうすればいいかわからないし、人と話すのが苦手だからです。わたしは幼いときから初対面の人には、小さな声でしか話せず、ずっとモジモジしていました。たまに相手に不快な思いをさせてしまうときもあり、こんな自分がきらいでもありました。

わたしは、この本を読んで、わたしも自分でできることはやろうと思いました。夏休みがおわったら初めて会う人でも、はきはき会話できるように心がけようと思

ます。

読んだ本「いつかの約束1945」

【 中 学 校 の 部 】

金 賞

『マイナス・ヒーロー』を読んで

南郷中学校 二年 門川 歩未

この『マイナス・ヒーロー』という本を選んだ理由は、本の表紙のバドミントンのイラストにひかれたからです。私は中学一年生からバドミントンクラブに入っているのですが、本の表紙の楽しそうにバドミントンをしている女の子を見た瞬間、

「どんな物語なのかな？」

と、気になりながら、この本を手にとりました。

この本は、体が弱くてバドミントンを諦めた過去があ

る中学二年生の凧人なぎとが同級生でバドミントン部の万年銀メダル、海うみのアドバイザーになる物語です。凧人の気持ちや感情が一つ一つ細かく書かれていて、読む方も、なんだかその場にいるような感覚をあげられます。この物語の主人公と私は同じ年で、とても共感が得られました。

『マイナス・ヒーロー』を読んで、感動した場面が二つあります。

一つ目は、凧人の兄、航わたるが凧人に自分のラケットを突き出した場面です。部活内でけんかをし、腹が立った凧人はラケットを投げ捨てました。その投げ捨てたラケットを見つけた航は

「今度は、壊すんじゃねえぞ。」

と凧人に言ってラケットを突き出しました。航は自分の物を貸すのが嫌いなのに、凧人にラケットをわたしているところから

「アドバイザーをがんばってほしい。」

という隠れた気持ちが読みとれます。いつもは、意地を張り合うばかりの、どうしようもなく仲の悪い兄弟だけど、本当は、家族想いで優しい兄弟なので、感動しました。また、私にも兄がいて、凧人のように仲が悪い兄弟です。よくけんかばかりします。でも、私が落ち込んでいるときは、よく笑わかしてくる、おもしろくて優しい存在です。航とは私の兄と似ていて、凧人とは私と似ているので、この場面を初めて読んだとき、

「私達のように兄弟愛が強いんだな。」

と思いました。

二つ目の感動した場面は、万年銀メダルの海が中学三年生最後の大会で金メダルをとった場面です。普段、ずっとにこにこしている海が、大粒の涙であふれているところを見たら、こっちまでもらい泣きしてしまうと思います。私は海のようにバドミントンが強くはないけど、試合に勝ったときのうれしさは、とても分かります。おげさかもしれないけど、

「今まで練習がんばってきて良かった。」

と思うぐらい試合に勝つのはうれしいです。

他にも凧人や海の前向きでポジティブな発言はとても心に響きました。特に凧人が試合中の海にかけた

「何度だって言う。あんたは勝てるよ。」

や海が凧人に言った、

「勝ってくるから。」

などは、何回読んでも心に響きます。もし、部活の仲間
にそう言われたら、やる気がでると思います。

「勝てる」

この一言だけでやる気ができるので、私からしたら、まほ
うのような言葉です。みんなで力を合わせて戦う団体戦
や、ペアと一緒に戦うダブルスでは、相手が前向きにな
れるような言葉をかけたいです。

私はバドミントンクラブに入っていますが、あまり上
手ではありません。しかし、『マイナス・ヒーロー』を
読んで、やっぱり練習を積み重ねることの大事さを学び
ました。また、私のバドミントンクラブのかんとくは、

「何も考えずに練習してもうまくならない。」

とおっしゃっていたので、簡単な練習でもきちんと目標
をもって練習すると決めました。

この本を読んで前するときよりもさらにバドミントン
が好きになりました。バドミントンが好きになったのは、
試合に勝つうれしさがえがかれているからです。実際に
勝つてうれしさをたくさんあげたいなと思いまし
た。『マイナス・ヒーロー』を読む前は、自分は体力が
ないから練習はむだだろうなと考えていましたが、読ん
だ後は、練習があることで体力が付き、バドミントンが
うまくなるんだと考えられるようになりました。「練習
はむだ」と考えていた自分はとても馬鹿だなと思いまし
た。この本を読んで本当に良かったと感じます。

『マイナス・ヒーロー』から努力するすばらしさを学んだので、バドミントンだけでなく、勉強などもたくさん努力していききたいです。

読んだ本「マイナス・ヒーロー」

銀賞

好きな自分を大切に

油津中学校 二年 中瀆 結愛

私には、好きなものがある。それは小学校一年生の頃からやっているハンドメイドだ。自分で想像したものを自由に作ることができるハンドメイドはとても楽しくて上手にできたときは家族や友人に自慢していた。だが、私は周りに人にハンドメイドを好きと言えなくなった。その訳はハンドメイドが好きなことを周りに否定されるようになったからだ。

自分がずっと好きだったものを周りの人に否定された私は自信がなくなり、落ち込んでいた。しばらくすると私は人と接するのも嫌になり人気のない図書室で

色々な本を読んで昼休みを過ごしていた。すると、夏休みが明けて一週間後の昼休みに図書司書の先生が一冊の本を紹介してくれた。

丸井とまと著『息ができない夜に、君だけがいた。』という本だ。好きなものを好きと言えなくなった女子高生が主人公の物語で、演劇部に所属する主人公が新入生歓迎会の演劇を笑われたことや動画に撮られ拡散されたことが原因で学校で声が出なくなる。また誰かに笑われることを恐れた主人公はマスクをつけ、声が出なくなったことを隠すがクラスで人気のある男子生徒、吉永に気づかれてしまう。声が出なくなったことを隠してもらうかわりに三ヶ月、吉永のやりたいことリストに付き合うことになった主人公は自分のやりたいことを見つ

け、変化する！

この物語を読んで思ったことが二つある。

一つ目は、好きなものを否定されても大事なのは自分の気持ちだということだ。人間みんな同じではないのだから自分の好きなものを相手も好きとは限らない。大切なのは自分が好きなものを好きでい続けるかどうかだということ。この本から学んだ。

二つ目は落ちこんでもだれかといっしょなら乗りこえられるということだ。主人公の女の子もクラスメイトや先生のおかげで困難に立ち向かっていけた。だから私もだれかを支えていけるようになりたいと心から思った。

私は今まで、些さ細こなことで落ちこんだりすることが沢

山あったがそれでも、前に進むことができる。この本のおかげで知ることができた。これからは、少しずつでも変わっていけるようになると思う。

読んだ本

「息ができない夜に、君だけがいた。」

銅賞

自分を形作るもの

鶯戸中学校 二年 中原 咲和

「二重らせんって何だろう」

私はこの本を手にとった時、疑問に思った。

この物語は、主人公の雅樹まさきが強盗殺人容疑で逮捕される所から始まる。しかし、雅樹には身に覚えがないのに、現場には自分のDNAが残っており、防犯カメラにも自分が写っていた。私はここまで読んで、雅樹が二重人格なのではないかと予想した。エピソードで幼少期に兄弟を欲しがっており、両親にねだっているシーンがあったからだ。その時に「孤独を埋めたかっただけなのに」と傷ついていたので、気付かない内にもう一人の自分をつ

くり、安心していただけでは、と考えた。しかし、真実は予想と違い、実は双子だったというものだった。両親からもそのような話は一切無く、雅樹も自分は一人っ子だと思い生きてきた。思わず「えっ」と声を出してしまい、とても驚いた。更に、警察官に扮して家にやってきたのだ。そうして双子の兄弟、基樹もとぎことジェイクと一緒に居た人物、ナガノによつて監禁されてしまう。私は雅樹が殺されてしまうのではないかと、とずっとハラハラしていた。ところが、暴力を振るわれたり、殺すおとと脅されたりされながらもジェイクと雅樹は少しずつ仲良くなっていた。こんな危機的状況で仲良くなれるだなんてすごいと思った。ジェイクとナガノは、「大いなる計画」を実行するために事件を起こし、雅樹を見つけ出したらしい。

同じ顔で事件を起こせば、雅樹を見つけ出す事ができる、だなんてとんでもない事を思いつくなど怖く感じた。そして、ジェイクから、どのように警察から逃げるのかを聞き、「大いなる計画」を止めるよう説得する。その時に、実はジェイクは殺人を犯しておらず、それも知らなかったのだという事が分かる。今まで、殺人犯だと思っていたのに実はそうではなかった、という事にびっくりした。そして、本当の殺人犯だったナガノと、それを手伝ったジェイクは捕まってしまう。事件は無事に終わり、雅樹は元の生活へと戻っていく。

私がこの物語で印象的だったのは、雅樹の「一卵性双生児として生まれた人間の個性って、どうやって決まるんだと思う？」という問いと、それに対する恋人、奈美

の返答だ。

「記憶、じゃないかな」

「異なる経験についての異なる記憶が、私たちを形作っているんだと思うな」

ジェイクと雅樹が別の人間であると気付いた奈美が言う。と説得力が違うと思った。本を読み終わった後、調べてみると二重らせんとは「平行な二本の線がらせん状になっている立体構造で、DNAは細胞中で二重らせん構造をとっている」とあり、更に「二重らせん構造には互いに補える特徴がある」らしい。タイトルから双子である事が表されていたのだと気付いて「うわぁ」と叫んでしまった。

物語の中で、何回も驚かされてしまい、読み終えた後

はしばらくドキドキした。最後のシーンでジェイクと雅

樹が楽しそうに話すシーンでは思わず泣きそうだった。

「自分の記憶が自分を形作っている」という事を忘れず、生活していきたい。

読んだ本「二重らせんのスイッチ」

入選

家族の大切さ

榎原中学校 二年 河野 茉友

私は、「ヒポクラテス」という言葉にひかれ、この本を読んでみることにしました。

この本では、引きこもりに悩む家族でおきてしまった事件を刑事の古手川と浦和医大法医学教室の真琴、

みつぎ

光崎、キャシーの四人が解決する物語です。法医学とは、

異状死の死因の診断、死後経過時間の推定、身元不明死体での個人識別などをしている所です。私は、この本の話を読んで初めて法医学のことについて知ることができました。医学は私達が生活していく上で大切なものな

ので分かりますが、法医学はなかなか知る機会も少なく分からない人も多いのではないのでしょうか。私は知らなかったことを知ることができて嬉しく思いました。そして、この本を読んで考えたことが四つあります。

一つ目は、浦和医大法医学教室の教授、光崎の死体の扱い方についてです。本の中でも何度も解剖について書かれています。真琴が見つけれなかった小さな傷を何個も見つけたり、メスを握った時に、ただの道具が生き物に変わると言われたりして、光崎の経験とスキルがどれほど高いか、よく知らない私でもその凄さが伝わってきました。私は、光崎のように一つのこと集中することが出来ないと思います。浦和医大法医学教室の助教、真琴も、光崎と自分のスキルの差に絶望している

所がありますが、自己憐憫れんびんに浸っている場合ではないと、心を切り替えて作業をする姿に圧倒されました。

二つ目は、解剖された後の死体についてです。物語の最初の事件では、口の中にあつた傷から、胃や小腸内に布があることが判明しました。元々自殺として片付けるはずの死体でしたが、解剖したことにより、本当の死因を知ることができたのです。そのおかげで、犯人をつかまえることができました。その後の解剖された死体の閉腹をするときに真琴の目には、心なしか死体の表情に穏やかさが宿ったように映ったそうです。事実を知ってもらえてうれしかったのだと思いました。

三つ目は、司法解剖の承諾についてです。物語の中では何度も子供の死体を解剖するのを嫌がる親がほとん

どでした。調べてみると日本では、解剖に対する文化的忌避きひが強いそうです。たしかに、私もできるだけ死体がきれいなままの方が良いと思うし、親からすると死んでしまった子供にこれ以上、傷を付けられることに対して抵抗感があるのではないかと思いました。実際に本の中の親のセリフの中で、

「もう娘に痛い思いをさせたくありません。」

「死んでからも痛い目に遭あうなんてひどすぎる。」

と言っていました。そう感じるのも無理はないと思いましたが。

四つ目は、五つの事件についてです。ほとんどの事件の被害者は引きこもりの子供でした。子供とは言っても、年齢が最低三十歳、最高六十歳の大人達です。この人達

は、就職活動に失敗してしまい、心が折れてしまい結果、引きこもりになった人達です。その人達はすべての原因を親や社会のせいだと言っていました。もし、もう少しだけでも頑張ることが出来たなら、親に殺されてしまうことは、なかったのかなと、少し複雑な気持ちになりました。しかも、子供が親に対して暴力を振るっている描写が何度もありました。例えば、ある家族の親は、骨を折られたり、たくさんの打撲痕だぶくこんがあったりしても、親は子供がたい捕されるのをおそれ、病院にもろくに行っていないませんでした。私がもし、親だったら迷わずに病院に行くと思います。理由は、その子供が人を殺してしまうかもしれないと思ったからです。その親は私が思うよりも、子供を大切にしていたんだと思います。

この本では、今まで知らなかった未知の事を知ること
で自分の家族の大切さを分かることが出来ました。この
本に出てきた事件は、現実でもありえる事件だったので、
おそろしかったです。また、真琴のように絶望してマイ
ナスなことばかり考えるのではなく、切り換えをうまく
出来るようになりたいと思いました。私は、一度の失敗
を何度も思い出してしまうことがあるので、今の自分を
こえるためには、区切りをつけること、自分の今出来る
ことを精一杯頑張ることが大事だと考えました。今回私
が学んだことをこれからの生活で生かしていこうと思
います。

読んだ本「ヒポクラテスの悲嘆」
ひたん

入選

「料理」とは…

南郷中学校 一年 田中 絢人

ぼくは、ある本を読んで身近な人の大切さや料理の楽しさについて改めて理解できました。そして、そのある本というのは、おちあいゆか落合由佳という方の、『天の台所』という本です。

この本は、祖母と母を亡くした家族の長男「天」てんが祖母の友人の「がみババ」というおばあさんから料理を主にいろいろなことを教わりながら、それと同時に家族のきずなを深めていくという日常的な内容の本です。そしてこの本を読んで思ったこと、学べたこと、分かったこと

とが五つあります。

まず、一つ目は「台所は家の心臓だ」ということです。人は食べないと生きていけません。また、何か食べればいやなことなどもすぐ忘れることもできます。このように、人間にとって「食べる」ということは楽しく生きていくために欠かせないものなのです。そしてそのご飯を作ることができるのが「台所」なのです。なので家の中で最も重要な台所のことを著者は「家の心臓」と表現しています。ぼくはそんなことを考えず、台所はふつうにあるものだと思っていました。でも、この言葉を見て感じました。なぜなら、台所がなくなった時のことを考えると大変だからです。

次に、二つ目は「人は成長する」ということです。こ

の物語の主人公・天は最初は卵をわることすらできず、からが入った卵を食べていました。でも後半になるにつれ成長し、最終的には一人で朝食を作れるまでになっていました。そして、なぜ成長したのかというと、がみババから料理の基本や心得などを教えてもらっていたからです。なにもできなかった天はまず基本から教えてもらっていました。なので小さいことから順につみ重ねていくことが大切なんだと分かりました。また、いろいろな技術は人から人へ受け継がれていくものだなあと改めて理解できました。

次に、三つ目は「協力することの大切さ」です。物語の後半で、天とその弟・妹の三人で料理コンクールというのに参加し、上位を目指していました。コンクール当

日、天たちは順ちょうで、制限時間の十五分前には終わっていました。ですが、その時、ほかのチームが料理を床に落としてしまい、あきらめていました。そこに天たちはかけつけ、いろいろ手伝い、時間ギリギリで間に合いました。ここでぼくは、「協力」が大切なことなんだなあと思いました。あきらめないで協力するとみんなが楽しくやれると思ったからです。ぼくもこんな場面にそうぐうしたら、天たちを見習って、同じ行動をとれるようにしたいです。

次に、四つ目は「料理を作る大切さ、おもしろさ」が分かったことです。この物語には、料理をつくり、食べてもらう場面が何回も出てきます。毎回のように時間もレシピも材料もちがいます。でも一つだけ同じことがあ

ります。それは、「食べている人の感情」です。食べる人の表情は必ず笑顔で楽しそうにしています。そしてその様子を見た料理人も必ず笑顔になっています。なので、「料理」とは、「どんな人でも幸せに包まれるもの」だとぼくは思います。いつでも、どこでも、だれとでもご飯の時間は楽しい時間です。このことから、失いたくない大切なものだと思います。

最後に、五つ目は「家族」についてです。天の祖母は、いつだってみんなのことを考えていました。どんなにいがしく、苦しい時でも何も言わずご飯をつくってくれたり、苦手なものをどうやったら食べてくれるか考えたり、栄養をとれるようにしたり、いろいろな所でみんなの成長を願って工夫していました。また、お父さんは仕

事がいそがしくても帰ってきていろいろな家事もやっています。なので、「家族」はいつも他のみんなのことを考えて働いてくれているんだなあと分かりました。それに比べてぼくは、いつも自分のことしか考えずに行動しています。これからはちゃんと手伝いとかをしつかりしていきたいです。

このように、この『天の台所』という本は、いろいろなことを教えてくれます。ぼくも実際に五つよりもっと多くのことを知れたし、考えることができました。また、それを活かしてこれからどうするかも考えられました。なので、この本を見かけたら、みなさんも必ず読んでみてください。

読んだ本「天の台所」

読書感想文の審査を終えて

読書がもたらす効果には様々なものがありますが、その一つに他者の思いに寄り添い共感する力が養われることが挙げられます。

登場人物はどうしてそのような行動をとったのか、作者はどのような意図でこのような表現を用いたのか、そういったことを想像しながら読書を重ねることで、日常の場面でも他者の立場に立って考えたり、共感的に思いに寄り添ったりすることができるようになってくるのだと思います。

今年度、日南市内の小・中学校から二十五点の読書感想文が寄せられました。

登場人物の考え方や行動に共感し、そこから得られた新たな発見や気づきを大切にして、自分自身のよりよい生き方につなげようとする前向きな気持ちが表示されている作品が多くありました。

中でも受賞した作品は、作品から印象に残った部分を切り取る視点、そこからメッセージを感じ取る感受性、さらにそれを表現する力が特に優れていたと思います。

日南市の児童生徒の皆さんが、これからもたくさんの本と出会い、作者や登場人物の目を通して世界を見つめることで、感性を豊かにし、より幸せな生き方へとつないでいってくださることを審査員一同願っています。

日南市立飴肥中学校 校長 横山貢一

読書感想画入賞作品

【小学校一年生の部】



金賞

吾田東小学校 倉元 康成

読んだ本「かいじゅうじまのなつやすみ」



銀賞

東郷小中学校 野脇 匠真

読んだ本「うみのおと」



銅賞 榎原小学校 三浦 一凜
読んだ本「なんにでもレナール！」



入選 潟上小学校 前原 沙咲
読んだ本「うみのおと」



入選 桜ヶ丘小学校 前田 爽輔
読んだ本「きよだいなガチャガチャ」

【小学校二年生の部】



金賞 北郷小中学校 風早 慧茉

読んだ本「おおきなきがほしい」

銀賞

東郷小中学校 山下 煌輝

読んだ本「アマガエルのうた」





銅賞 桜ヶ丘小学校 山下 遙真
読んだ本「みずたまのたび」



入選 大堂津学校 多田 希琉亜
読んだ本「トラケラトプスと巨大ワニ」



入選 吾田東小学校 植野 日菜
読んだ本「アザラシのアニュー」



金賞 吾田小学校 早田 清春
読んだ本「恐竜トリケラトプスと巨大ガメ」



銀賞 油津小学校 平永 仁華
読んだ本「ジャングルブック」



銅賞 吾田東小学校 日高 結彩音
読んだ本「おぼけのきもだめし」



入選 桜ヶ丘小学校 猪股 諒也
読んだ本「10分で読める名作 とりかえっこちびぞう」



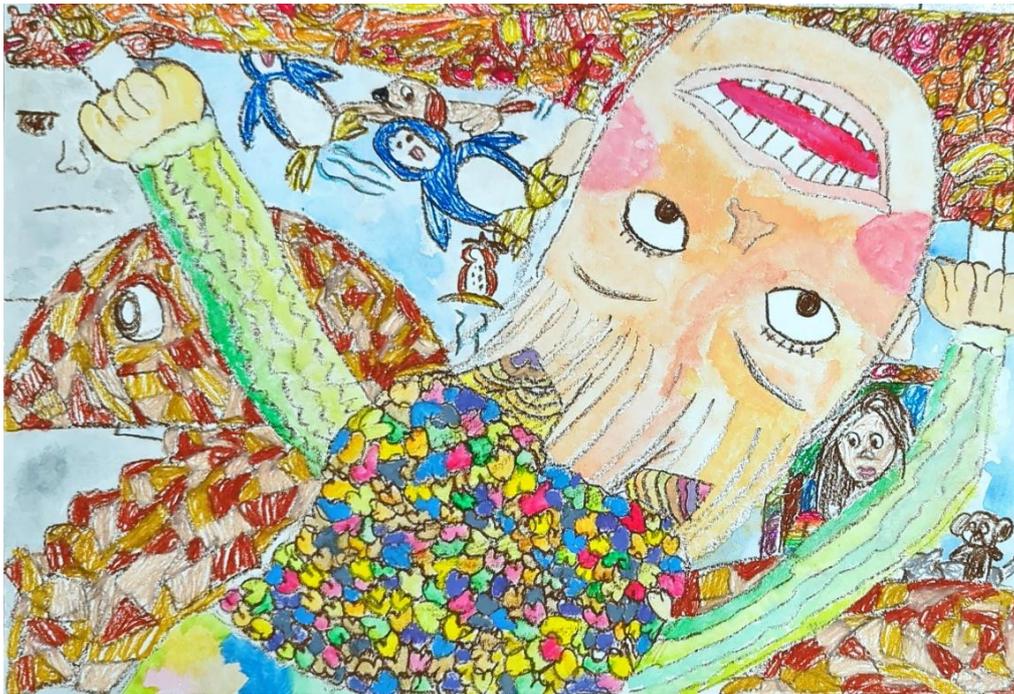
入選 鵜戸小中学校 馬場 陵太郎
読んだ本「オリンピックのおぼけずかん」



金賞 吾田東小学校 竹下 竜矢
読んだ本「わたしのあくびみなかった？」

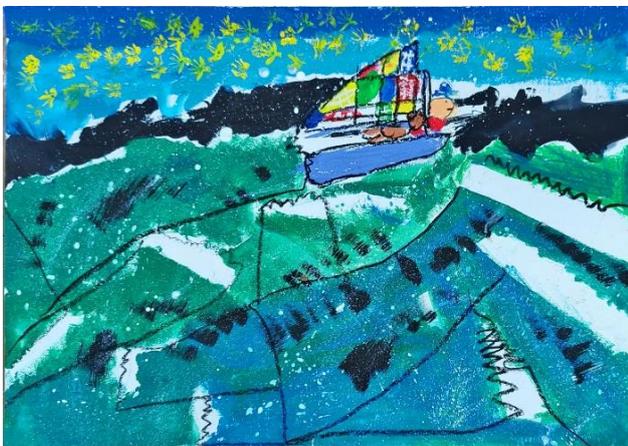


銀賞 桜ヶ丘小学校 鳥谷 快斗
読んだ本「金色の雲になったトラ」



銅賞 吾田東小学校 蛭原 明生

読んだ本「わたしのあくびみなかった？」



入選 南郷小学校 高橋 望叶

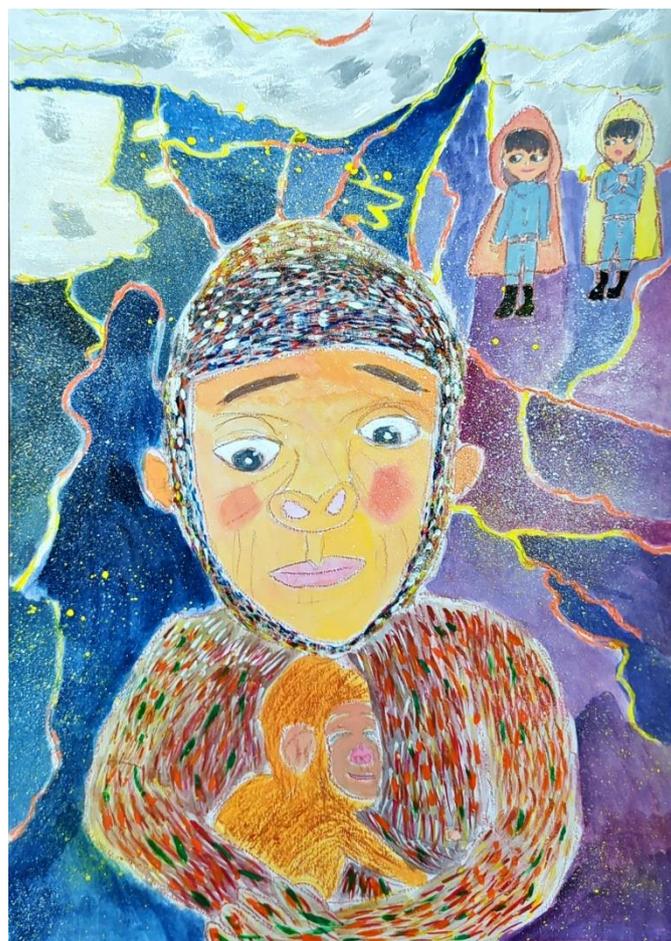
読んだ本「わたしのあくび
みなかった？」



入選 飢肥小学校 重村 恩夢

読んだ本「神様のおつかい犬純平」

【小学校五年生の部】



金賞

桜ヶ丘小学校 白石 結愛

読んだ本「おりの中の秘密」

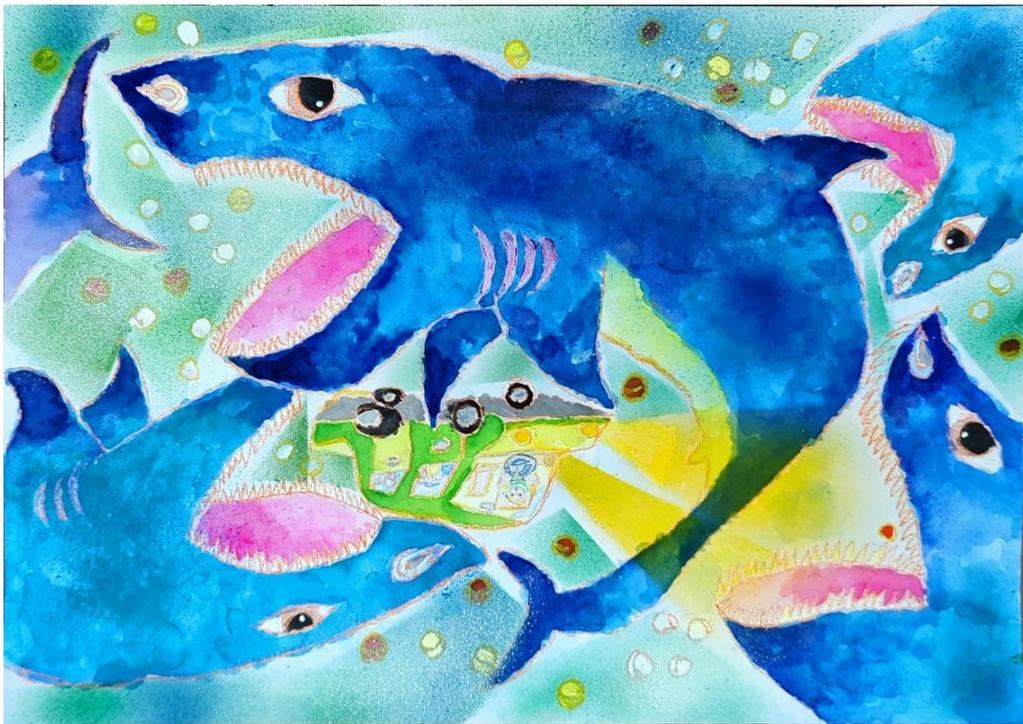


銀賞

飢肥小学校 濱田 彩乃

読んだ本「オペラ座の怪人

地下にひびく恐怖のメロディー」



銅賞 油津小学校 黒木 晴大
読んだ本「そのころ地球では・・・」

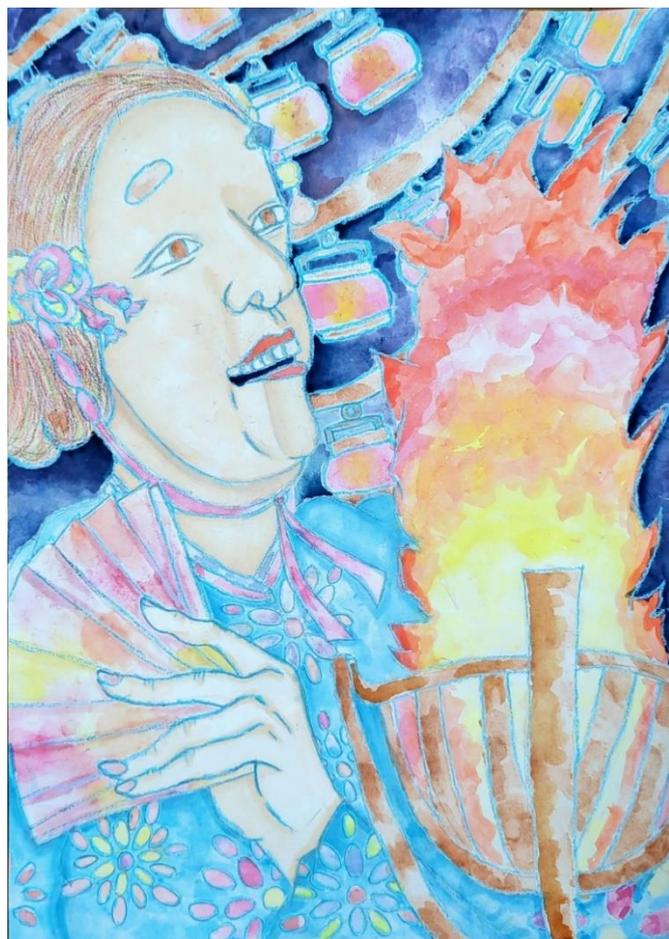


入選 桜ヶ丘小学校 松浦 さや
読んだ本「秘密の花園」



入選 北郷小中学校 日高 結翔
読んだ本「そのころ地球では・・・」

【小学校六年生の部】



金賞

油津小学校 山田 陽莉

読んだ本「暗やみに能面ひっそり」



銀賞

桜ヶ丘小学校 宮田 虹雫

読んだ本「白いりゅう黒いりゅう」

銅賞

酒谷小学校 岩倉 白花
読んだ本「手塚治虫」



入選 湊上小学校 上村 聖樹
読んだ本「シートン動物記
オオカミ王ロボ」



入選 大窪小学校 高村 叶夢
読んだ本「銀河鉄道之夜」

読書感想画の審査を終えて

読書感想画は、本という作品に込められた作者の思いを受け取るころからスタートします。自分が心惹かれた作品の、心惹かれた場面を描きながら、その感動に出会った時のドキドキやワクワク、時には、ホノボノやシンミリ、キュンキュン等、様々な感情を、色や形を使って画用紙に定着させていきます。描いている間、子どもたちの心は、作品の中の世界と現実の世界とを何度となく行き来します。

一年生金賞の、倉元康成さんの作品には、なんとも魅力的な表情の生き物の顔が画面一杯に描かれ、それを二人の登場人物がワクワクした表情で見つめています。二人の表情から、この生き物に対する康成さん自身の驚きや親しみまで伝わって来るようです。二年生金賞の風早慧菜さんの作品は、大きな木の上で、小鳥とお話したり、ブランコをしたりして思い思いに遊ぶ人々が描かれています。慧菜さんは、きっと、この全部をやってみたいと思いつつながら、ウキウキとこの作品を仕上げたのではないのでしょうか。三年生金賞の早田清春さんの作品は、赤い口を大きく開けた青いモンスターが強烈な印象を放っています。きっと、清春さん渾身のモンスターなのでしょう。筆のタッチを変えることで、太い腕のたくましさや大騒ぎになっている海の様子がよく表現されています。四年生金賞の竹下竜矢さんの作品は、色々な場面が一つにまとめられた作品で、どんなお話なのかとても興味が湧きます。色々な出来事が次々に起こっていくストーリーに、ワクワクしながらページをめくった竜矢さんの興奮が伝わってくるようです。五年生金賞の白石結愛さんの作品では、中央に大きく描かれた二匹の猿の表情から、二匹の絆が伺えます。様々な色を使った毛並みの表現や青と紫を基調とした背景が、画面に重みを与え、結愛さんがこの作品から感じた大切なことを教えてくれているようです。六年生の山田陽莉さんの作品は、構図、描写力、色使いや筆遣いに至るまで、卓越した高い技術が伺えます。お面をかぶった人物なので、少し難しいかも知れませんが、この

場面で、どんな気持ちを表そうとしているのかがストレートに伝わると、更に素晴らしいと思います。

その他の作品にも、子どもたちそれぞれの感情が込められています。それが一体、どんなものなのか？想像しながら楽しんでご覧いただければ幸いです。

桜ヶ丘小学校 校長 藤元 安春

審査員氏名一覽

横山 貢一 飫肥中学校

尾前 亮一 南郷小学校

小西 英夫 社会教育指導員

東 嘉太郎 社会教育指導員

湯淺 安彦 社会教育指導員

米良 照彦 社会教育指導員

榎木田 文生 社会教育指導員

緒方 克哉 学校教育課 指導主事

藤元 安春 桜ヶ丘小学校

松浦 和枝 飫肥小学校

石塚 賢 北郷小中学校

令和6年度

日南市読書感想文・読書感想画コンクール受賞作品集

第16集

令和7年2月発行

発行 日南市教育委員会 生涯学習課

日南市中央通1丁目1番地1

編集 日南市教育委員会 生涯学習課図書館係

日南市飢肥2丁目6番18号

電話 (0987) 25-0158

